

第1回「マナーキッズ」調べ表彰者発表会感想文

「マナーキッズを学校の伝統に」

ぼくたちの学校の今年の児童会テーマは、「めざせ！マナーキッズ世界一！」です。四月に六年生になり、このテーマが決定したとき、「今のぼくたちでは世界一になれない。ぼくはどう努力すればよいのだろう。」と考えました。ぼくたち六年生は学校の顔であり、下級生をリードしていく立場です。

学校では、毎朝、全校が「立腰」に取り組んでいます。ぼくは、意識しているときは背筋を伸ばしていることができても、時間が経つといつの間にか背中が丸くなります。だから、イスに座っているときはもちろん、立っているときも、腰やおへその辺りを意識してまっすぐに立つよう心がけるようになりました。全校が集まる場所では特に気をつけています。

姿勢をよくすると、相手の顔をきちんと見て、目と心で話を聞くことができます。全校集会では一年生にも正しい立ち方をしてほしいので、両うでに手をそえて教えるようにしています。また、家では生活リズムの見直しをしました。それまでは、食べ物の好ききらいがあって朝食の量が少なく、学校に行っても勉強の内容がなかなか頭に入らないと感じることがありました。

しかし、約束の十時にはねて、朝食に出されたものは何でも食べるように心がけたところ、授業に集中できるようになりました。テストの点も上がり、生活リズムは大切だと心から思いました。

家でのがんばりは下級生には見えないかもしれないけれど、ぼくの前向きな気持ちは、学校生活のいろいろな場面で伝わっていると思います。卒業まであと半年になりました。マナーキッズが今年だけでなく、ぼくたちの学校のよい伝統となるようにこれからも気をぬかず生活していきたいです。

(鳥取県八頭町小学校6年生、男子)

「くらしとマナー」

ぼくは、登校中に友達や先生、地域の方と出会った時に、相手の顔を見ずにあいさつをしていました。また、トイレのスリッパをそろえることをせず、先生に注意されることもありました。「マナー」についてあまり考えることなく生活していました。

そんな時、ぼくは、学校で「マナーキッズテニス教室」に参加しました。テニス教室の中でマナーについて教わったのです。最初ぼくは、プレー中のルールを守り、大きな声であいさつをすればいいのだろうと軽く考えていました。

鈴木総師範さんに「あいさつは、最初、言葉を言って、次に腰を折ります。最後は、相

手の顔を見ます。」と教わりました。鈴木総師範さんがあいさつされる姿は、流れるようでとてもきれいでした。早速、ぼくもテニスを教えてくださるコーチに同じようにあいさつをしてみました。すると、コーチも同じやり方であいさつをしてくださいました。初めて会ったはずなのに、心が通じ合い、気が引きしめる思いがしました。また、ラケットをそそえて置くことも教わりました。自分の使った道具の向きをそろえてならべると、すっきりと整って見え、落ち着いた気持ちになりました。

このテニス教室を通して、「マナーがくらしを豊かな気持ちにしてくれたんだ。」と強く感じました。そして、今までの自分の生活を振り返り、自分に足りなかったところを変えたいという気持ちになりました。

まず、あいさつするとき、相手の目を見るようになりました。すると、相手もにこやかにあいさつを返してくれました。そして、トイレのスリッパを友達の使った物も整えていると、「ありがとう」と感謝されるようになりました。今では、「マナーキッズ」調べで、自信をもって「できている」と答えることができるようになりました。

(岡山県倉敷市小学校5年生、男子)

「マナーって大切」

今年の二月に、船岡小学校で、「マナーキッズテニス教室」が開かれました。れいのしかたやあいさつを元気することを習って、マナーはとても大切だと分かりました。それから、「マナーキッズ調べ50」に気をつけて過ごすようになりました。教室に「マナーキッズ調べ50」がはったあるので、みんなも気をつけています。

わたしがとくにがんばっているのは、食事のマナーです。「いただきます。」は、「ありがとうございます。」の気持ちこめて言っています。給食センターの方やお母さんに、気持ちをつたえたいからです。

次ががんばっていることは、友だちにあたたかい言葉をかけるということです。人をききずつける言葉は、言われた友だちもいやな気持ちになるけれど、言った自分もすごくいやな気持ちがするからです。あたたかい言葉を使うようにすると、自分も友だちも気持ちよくなります。そして、まわりにいる友だちまでひろがりやさしい気持ちがふえていきます。

マナーを身につけることで、みんなが気持ちよくすごせるので家でも学校でもマナーに気をつけて生活したいです。

(鳥取県八頭町小学校3年生、女子)

「ほくさいのてんらいかいをみてのマナーについて」

あかふじをみるのが、たのしかった。おはなしをしないようにした。えをみているひとを、おさないようにした。

おばけのろくろくびのえをみたのが、おもしろかった。

ようちえんにかえってきて、あかふじのえをキャンバスにアクリルえのぐでかけました。

おおごえをださなかったので、よかったとおもいます。またいきたいです。

(東京都墨田区幼稚園年長組、男子)

「マナーを大切に」

わたしは、マナーキッズをやって、よかったと、思いました。理由は、たくさんあります。あいさつのしかたや、まっている時のしせいを教えてくれたからです。今まで、三回教えてもらいました。毎年なおすところを教えてもらっているので、マナーキッズが終わった時自分が変わった気がします。

わたしは、マナーを大切にしようと思いました。

マナーは、くらしに大切だと思います。マナーを守っていると、みんなが気持ちよくなれると、思うからです。スポーツは、そんなときじゃないけれど、マナーキッズで、マナーとスポーツを教えてもらえて、とてもうれしかったです。マナーとくらしを大切にしていきたいです。それは、人のコミュニケーションをたかめると思いました。

学校をそつ業するまで、あと三回あります。その時わたしは、変わってきたいです。

こんど、マナーキッズの先生に会う時は、スポーツがとくいで、マナーを大切にできる人になりたいです。スポーツやほかの場面でもマナーを教えてもらいたいです。テニスも上手になりたいです。

わたしは、これからもマナーを学んでいきます。

(東京都品川区小学校3年生、女子)

「くらしとマナー」

ぼくの通っている京陽小学校は、創立 136 年と伝統ある小学校です。京陽小学校では江戸しぐさを学んでいます。江戸しぐさでは、相手を思いやりたり尊敬の心を持って行動したりすることが大切だということを教わりました。相手の事を思い行動すると相手も自分も気持ちよく生活することができます。

また、一年生の時から年一度、マナーキッズ教室でテニスを通してマナーを学びます。テニスを始める時は、始めと終わりは特に大きな声であいさつをしましょうと教わりました。初めは、あいさつもテニスもあまり上手にできなかったけれど、五年生になった今は、マナーの大切さを知り、あいさつや姿勢などのマナーをしっかりと守れるようになりました。テニスも少し上手になりました。そして、マナーキッズ教室の時だけでなく、知っている人や初めて会う人にもあいさつができるようになりました。あいさつは、相手の心と自分

の心を互いに深め合うものだと思います。

ぼくのお母さんは、ぼく達兄弟が小さなころから毎日のように「知っている人に会った時は、元気よく大きな声であいさつするのよ。朝は、特に気持ちの良いあいさつをしてね。」と言い続けています。お母さんは近くに買い物に行ってもなかなか帰ってこないことがあります。それは、知っている人に会うたびにあいさつしているからだと知りました。お母さんが近所の人に、「お宅の子ども達は本当に良くあいさつをしてくれるのよ。」とほめられた時は、ぼくがテストで良い成績を取った時よりうれしそうにぼくをほめてくれます。だから、ぼくはちょっとはずかしい時もあるけどこれからもがんばって大きな声で気持ちの良いあいさつをします。そして、人として大切なマナーを学んでいます。

(東京都品川区小学校5年生、男子)

「心地よい場所」

小学校で行われたマナーキッズプロジェクトの中で鈴木万亀子先生の中から心をつなぎ、思いやりの心を大切にすることが大事だと教わりました。

わたしは、五年生の時から、委員会単位で毎朝あいさつ運動に参加しています。実は、わたしは小さい頃とてもはずかしがり屋だったので、元気よくあいさつすることが苦手だと思っている人の気持ちがよく分かります。でも、あいさつしなければ相手と心をつなげることは難しいと思います。

校長先生は、毎朝校門の前で、わたしたちにとっても大きな声であいさつしてくださいます。その元気なあいさつからわたしたちは元気をいただいています。元気なあいさつをすると、相手まで元気にすることができると思います。だから、これからも自分からあいさつをすることでみんなにも元気なあいさつをしましょうと伝えていきたいです。

また、鈴木万亀子先生から正しい姿勢とおじぎの話聞いた時、わたしは家族で旅館に泊まりに行った時のことを思い出しました。旅館の方は、優しい笑顔で「いらっしゃいませ。」と言った後に、おじぎをしておられました。何だかとても気持ちいいなあと感じていたのですが、これが本当のお客さんのために正しいあいさつの仕方を身に付けておられるのだなと感心しました。そういう相手を思いやる気持ちの積み重ねが訪れる人にとって心地よく感じられ、家族みんなのお気に入りの場所になっているのかなと感じました。

小学校でも、一人一人が礼儀正しい態度で過ごすこと、相手の気持ちを考え思いやりの心を大切にすることで、みんなにとって心地よい場所になると思います。そのために、わたしも周りの友達と一緒に、自分にできることからコツコツとがんばっていきたいです。

(富山県富山市小学校6年生、女子)

「くらしとマナー」

ぼくはこの前でん車にのって出かけました。その時弟は、えきのかいだんでふざけてしまったり、えきのホームではじをあるこうとしました。でん車にのってからもドアの前に立っていたり、大きな声で話していました。

弟はまだ三才でよく分からないので、ぼくがかいだんの上り方やでん車の中ではしずかにすること、ドアがひらく時ははじによることなどを教えました。

大人でも大きな声で話していたり、下りる人がいるのにのりこんでしまう人がいるけど、ぼくはそれを見るといやだなと思います。

マナーをまもらないと、まわりの人がいやな気持ちになったり、めいわくになると思います。

ぼくは人にめいわくをかけるのがいやなので、マナーをまもっていきたいです。

(東京都品川区小学校2年生、男子)

「くらしとマナー」

わたしたちのくらしの中には、たくさんのマナーがあります。たとえば、あいさつ、れいぎなどがありますが、その中でもぼくが、大事だと思うマナーは、交通ルールです。なぜかといえると、交通事故がとても多いのでとてもこわく、悲しむ人がでるかもしれないからです。交通ルールをマナーとして守れば悲しむ人がいなくなるかもしれません。

ぼくが交通事こをへらすために大事だと思うルールを三つあげます。

一つ目は、信号を守ることです。当たり前なことは当たり前に、赤信号は、わたったはだめ、青信号はわたってよいというルールを守ることです。

二つ目は、横だん歩道をわたるときに必ず左右を見ることです。なぜかといくと、青信号でもとつぜん走ってくる事が時々あるので必ず左右をかくにんしてわたります。

三つ目は、自転車に乗る時は、必ずヘルメットをつけることです。ヘルメットは、頭を守る大切な道具です。もしヘルメットをつけずに交通事こにあったら大けがで命をうしなうかもしれません。だからヘルメットを必ずつけるのが大事です。

交通ルールを一人一人が守れば、大きな事でも少なくなると思います。自分も交通ルールというマナーを守り、みなさんも交通事こにあわないように、マナーを守って生活しましょう。

(東京都品川区小学校4年生、男子)

「めざせ！マナーキッズせかいー！！」

ぼくは、マナーキッズせかいーをめざしています。

とくに、あいさつをがんばっています。きちんととまって、あいての目をみて、にこにこえがおで、じぶんからあいさつをするようにしています。あいさつをすると、きもちが

いいし、きょうもがんばるぞというきもちになります。

ぼくは、へんじもがんばっています。なまえをよばれたら、きちんとおおきなこえではっきりとへんじをしています。

にがてなことは、てれびやげえむのじかんをまもることです。一かいげえむをはじめると、むちゃになってしまって、なかなかやめられません。これからは、ちゃんときめたじかんをまもりたいです。

そして、マナーキッズせかいーになりたいです。

(鳥取県八頭町小学校1年生、男子)

わたしはなんとうきょくです。ことし6さいです。げんざいひがしあずまほいくえんにざいえんしています。

ほいくえんで「あいさつうんどう」をやっています。とてもよかったです。らいねんはしょうがくせいになります。

これからずっと「あいさつうんどう」をつづけたいとおもいます。

(東京都墨田区保育園年長組、男子)

「しっかりと守るマナー」

ぼくは、小学三年生の頃からマナーキッズをしていました。最初は、テニスをしながらお辞儀やあいさつを学んでいました。そして、少しずつテニスだけでなく、実際に色々な場面で、正しいお辞儀やあいさつをして、良い生活をおくることができてきました。しかし、まだマナーを守れたり、守れなかつたりすることがあるので、それを完ぺきにできるようにするために、基本的なマナーから、しっかりと守れるようにするにはどのようなマナーを守れば良いのか考えました。

ぼくが、きちんと守りたいマナーは、言葉とお辞儀、あいさつ、生活のしかた、です。言葉は、言葉遣いに気をつけたいです。言葉遣いが悪いと友達とトラブルになってしまうからです。お辞儀は、言葉を先に言ってからできるようにしたいです。お辞儀とあいさつを同時にしてしまうとやる気がないようにみえてしまうからです。あいさつでは、最低限のあいさつをしっかりとあたりまえのようにできるようにがんばりたいです。全ては、あいさつからはじまるのでしっかりしたあいさつをして、気持ち良く生活できるようにしたいからです。生活では、早寝早起きをしていると生活のリズムが良くなり、健康な体でいることができますし、食事を必ず食べると、栄養をとることができ、体が元気に動くからです。この二つをしていれば、生活のリズムが整えられ、病気にならない体になるので必ずしたいです。

これらのことをしっかりと守っていれば、元気で健康な体でとても礼儀の良い、立派な人になれるので必ず守ることができるようがんばりたいです。

(東京都品川区立小学校6年生、男子)

「がんばっていること」

わたしが、ふだんがんばっていることは、あいさつとしせいです。

あいさつは、えがおでみんながかえしてくれるようなあいさつをがんばっています。とうこう中、出会った人にあいさつをしたら、あいさつをかえしてくださいました。わたしは、今日も一日がんばるぞという気持ちになりました。わたしのとうこうはんでは、はん長がとってもいいあいさつをしているので、みんなもならっていいあいさつをしています。出会ったお年よりもわかい人もみんないい気持ちになってくださいます。

しせいでは、立っていきり時、つま先をひらいてかかとをつけて、立つのをがんばっています。ピシッ立っているかんじがして気持ちいいです。先生にもほめられました。

大人になってもつま先をひらいて立ったり、あいさつをがんばったりしています。

(鳥取県八頭町立小学校2年生、女子)

「くらしとマナー」

学校で「マナーキッズテニス教室」が開かれ、五年生全員が参加しました。私がこのテニス教室に参加して学んだことは、マナーの大切さです。まず、活動の前と後に、「よろしくお願いします。」「ありがとうございました、」というあいさつの仕方を学びました。あいさつをした後には、こしを折って礼をすることも教えていただきました。礼をすることも教えていただきました。礼をすることで相手に敬意を表し、より気持ちが伝わるということが分かりました。それからは、気持ちのよいあいさつができるよう普段の生活で心がけています。

また、「マナーキッズ」調べをすることで、自分の生活を見直すことができました。私は、「です。」「ます。」という言葉づかいがあまりできていなかったことに気付きました。これからは、目上の人に対してていねいな言葉づかいをするように気をつけようと思います。社会に出ていろいろな立場の人と接するとき、正しい敬語が使える大人になりたいです。

また、「友達の悪口を言わない。」ということは、以前から心がけていたので、改めて大切なことなんだと実感しました。悪口を言うと相手がある場になくても、その人の人格を傷つけることになると思います。悪口が続くと聞いている人はいやな気持ちになるし、いじめにつながることもあるかもしれません。私は友達と話をしているときに、悪口につながる話題が出たら、楽しい話をして話題を変えるようにしています。友誼を大切にするために、これからも心がけたいです。

今回の体験で、私はマナーの大切さについて考えることができました。マナーを守ることとは、私たちの生活をより良くすることにつながると思います。これからも生活の中でマ

ナーをしっかりと身につけていきたいです。

(岡山県倉敷市立小学校5年生、女子)

「マナーを守る」

むかしよんだ本で、あんばんまんが、「おはよう、さよならをげん気にいおうね。」といっていました。わたしは、小さいころまねをして、「おはよう。おはよう。とじぶんからよくいっていました。

いま、学校にいくと中で、ともだちや先生にあったとき、大きなこえであいさつをしています。えがおであいさつをすると、えがおであいさつをかえしてくれるので、気持ちよくてうれしくなります。

ようちえんでならったじゅんばんをまもることを、一年生でもしています。

えんそくのでん車の中で、大きなこえではなしをしませんでした。

きゅうしょくのと看、いただきますをしたら、「もぐもぐタイム」がはじまります。しずかにたべると、こぼさないし、たくさんたべられるので、もぐもぐたべられるように気をつけます。

マナーをまもると、みんなと気持ちよくすごせるんで、つづけていきたいです。

(東京都品川区立小学校1年生、女子)

「くらしとマナー」

今回のプロジェクトを受けて、初めてマナーについて考えてみました。すると、いろいろな事に気づかされます。

僕は幼い頃から母・祖父母・先生方に、あいさつ・姿勢について日々教わってきました。「しなさい、」「するものだよ。」と言われて、何も考えず行って身に付けてきました。大切な事だと分かってはいたと思うけれど、「すごいね。」「上手だね。」とほめられる事がうれしくて、一生懸命やっていたと思います。そのおかげで、あたりまえに行動することが出来るようになりました。

そのあたりまえの行動の意味が、マナーキッズの体験によって知ることができました。

例えばあいさつにおいて、目下の者が先にあいさつをする事、心を残し相手の動きを受け、次の行動に移ることなど、今まで身に付けてきた事の本当の意味を教わりました。

その他に、日頃忙しい父とは、週に一度いっしょにお風呂に入る週間になっています。その時「先に体を洗ってから湯船につかる。」という事を教えてもらっていました。最近、銭湯に行く機会があり父の言っていた事をほとんどの人が行っており、あたりまえの事なのだと思ってもって体験しました。これは、みんなが使う物への思いやりや、次に使う人が気持ちよく使うための気配りから行う行動だという事が分かりました。

しかし、みんなが同じ気持ちや考えをもっているとは限らない事も分かりました。ル

ールさえ守ればよいという人もいます。心ない形だけの行動は、マナーじゃありません。さびしく悲しい気持ちにささられます。

私達のくらしの中には、マナーと関わる事がたくさんあるのが分かりました。人を敬う気持ちをもつ人が増えると、より良い暮らしが送れると思います。マナーをみんなに伝える一員になれるように、行動していきたいです。

(富山県富山市立小学校6年生、男子)

「じゅん番をまもろう」

わたしは、じゅん番をまもることがとても大切だと思います。じゅん番をまもらなければ、みんないやな気持ちになってしまうからです。そして、ケンカになるかもしれません。だから、わたしはじゅん番をまもって、後ろにならぶことにしました。

もし、友だちに前にいってもいいよと言われても、後ろにならんでいる人がかわいそうだから、ちゃんとじゅん番通りにならびます。それから、もしどっちが先にならんだかわからなかったら、いいよとゆずれば、ケンカにならなくてすむと思います。

そうやって、自分がやさしくなれば、友だちもやさしくしてくれると思います。みんながそうすれば、みんながしあわせになれると思います。家ぞくのみんなもしあわせになれると思います。

だから、じゅん番はとても大切だと思います。しっかりまもっていきたいです。

(東京都品川区小学校2年生、女子)

「思いやりは第一歩」

「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」、みなさんは、一日に何度これらの言葉を口にしていきますか。これらの言葉は、言ったり、言われたりすると、気持ちが良くなる言葉、「あいさつ」です。けれども最近、そのあいさちが減ってきているように思います。

例えば、私の学校には「あいさつ当番」といって、朝登校してきた人にあいさつするという当番があります。いつもなら、元気なあいさつが聞こえてきます。ところが、あいさつの声を聞いていると、あいさつの当番の児童の声も、登校してきた児童の声の小さく、(あいさつ当番の意味はあるのかな・・・)と思うことがよくあります。

また、私が友達にあいさつをすると、友達はふりむいて、「おはよう！」と言ってくれる時もありますが、私の声が小さいからなのか、ふりをむいてくれない時もあります。このような時、(あいさつをしなかったり、していても元気がなかったりすると、相手はどんな気持ちになるだろうか・・・)ということを考えることが大切です。自分のことだけでなく、相手のことも考えることを「思いやり」といいます。思いやりは、マナーの一歩となります。そして、あいさつのこと以外にもくらしの中にはマナーがたくさんあります。自

分が気持ち良くなるためにも、相手が気持ち良くなるためにも、思いやる心を持ち、マナーを守ることが大切です。

(東京都品川区小学校5年生、女子)

「くらしとマナー」

ぼくが、心がけている大切なマナーは、三つあります。一つ目は、元気にあいさつ。二つ目は、目を見てお話。三つ目はえがおでコミュニケーションです。

元気な声で「おはよう」とあいさつをするととても気もちがよいです。

友だちからも元気なあいさつが、かえってくるとうれしい気もちになります。

元気なあいさつをしあえると、一日を元気にすごすことができます。

目を見て話をすると、つたえようとしている気もちがとてもよくわかります。

人は、目に気もちがいちばん出ると思います。

だからぼくは、目を見て話をしたり、目を見て人の話をきいたりするようにしています。

えがおでコミュニケーションをとるとあかるくなります。

ぼくがえがおでいると、みんなからも、えがおがかえってきます。

友だちともなかよしでいられます。

だから毎日えがおでいることを心がけています。

元気とえがおは、人にやすらぎをあたえてくれるくすりのようなものだと思います。

これからも元気にえがおで、毎日すごせるように心がけます。

(東京都品川区小学校3年生、男子)

「世界一のマナーキッズになりたいな」

今までわたしは、字を書くしせいが悪かったり、食べる時よくかんで食べてなかったり、気をつけのしせいも悪く、あたり前と思っていり事が出来ませんでした。自分で直そうとする気持ちがあまりなく、じゅ業中先生に、「目が近いですよ。」と言われて気がついて直している事がほとんどでした。あいさつは地いきの方に会ったらあいさつをしていたのでいいと思ってました。今ふり返ると明るい声ではなかったし、れいをした後、人の目を見ずにあいさつをしていたと思います。

でも、マナーキッズテニス教室をしてから少し変わりました。一番心に残っている事は、テニスを始める前のあいさつです。れいをした後、教わる方の目を見る事を教わり改めてあいさつはとても大切だなと、大事だなと思いました。マナーといっしょにテニスを学び、とても楽しかったです。

学級に「マナーキッズ」調べの表があり、月の終わりに自分をふり返るようになりました。学級のみんなといっしょにマナーキッズをふり返ってみると、学級のみんなでがんば

らなくてはいけない事もよく分かりました。学級でも目標を決めておたがいに声をかけ合っていると、出来ていない所が減ってきました。すると、四年生や五年生の一学期に比べてしせいも見ちがえるほどよくなりました。

マナーが身につくと、自分も相手も気持ちよく生活出来る事にも気づけました。

「しせいがよくなったね。」と学校で先生に言われてうれしかったです。勉強にもやる気が出ました。

これからの、世界一のマナーキッズになれるようにあいさつ、しせい、食事のマナーを身につけたいです。まだまだ、出来ない事はたくさんあるのでそれを少しずつがんばって出来るようにチャレンジします。

(鳥取県八頭町立小学校5年生、女子)